

昇降式移動足場
「アップスター36S」取扱説明書

平成 17年 7月

 **住友金属建材株式会社**

目次

使用上の基準	----- 1
仕様・組立図	----- 2
組立手順	----- 3
解体手順	----- 5
メンテナンス	----- 6

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。

使用基準

1. アップスターを使用するにあたって

- (1) 作業には、あらかじめ安全な使用についての教育を行うこと。
- (2) 複数の人数で使用するときは、作業を指揮する者を選任し、その者に作業を指揮させること。
- (3) 手摺、中棧等を止むを得ず取り外したときは、安全帯の使用等墜落による作業者の危険を防止するための措置を講ずること。なお、取り外した手摺等は、その必要がなくなったとき速やかに元の状態に戻すこと。
- (4) 作業中は保護帽を着用すること。また、安全帯の使用を命ぜられた場合には、安全帯を使用すること。
- (5) 作業中に関係者以外の者が、作業区域内に立ち入ることによる危害を防止するため、その周辺には柵、囲い又は標識等により立ち入り禁止区域を明示すること。
- (6) 作業を安全に行うため、作業に必要な照度を確保すること。
- (7) 作業床上では、脚立、梯子等を使用して作業しないこと。
- (8) 複数のアップスターを併置し、その上に足場板等を掛渡して作業床として使用しないこと。
- (9) 目的外の用途には使用しないこと。

2. アップスターは、みだりに分解・組立を行わないこと。

3. アップスターの移動にあたって

- (1) 原則として作業床を最低の高さに下降させた後に行うこと。
- (2) 作業者を乗せたまま行わないこと。
- (3) あらかじめ、床面の凹凸、障害物等の状態を確認し、移動中の転倒を防止すること。

4. アップスターの設置にあたって

- (1) 平坦かつ水平な場所で使用すること。
- (2) 不意の移動を防止するためブレーキ、アウトリガー又はジャッキ等を確実に使用すること。

5. アップスターに荷を積載する等にあたって

- (1) 最大積載荷重の表示を確認し、これを超えないこと。
- (2) 材料等を載せるときは、転倒防止のため偏芯しないように配慮すること。
- (3) 手摺・巾木等に荷を載せないこと。

禁止

1. 積載荷重以内で使用して下さい。
2. 移動・転倒防止のため、車輪はすべてブレーキを効かせ、アウトリガーは必ず正規の方向に広げて使用して下さい。
3. 人を乗せたまま、移動させないでください。
4. 上昇・下降時に、摺動部等に触れないで下さい。

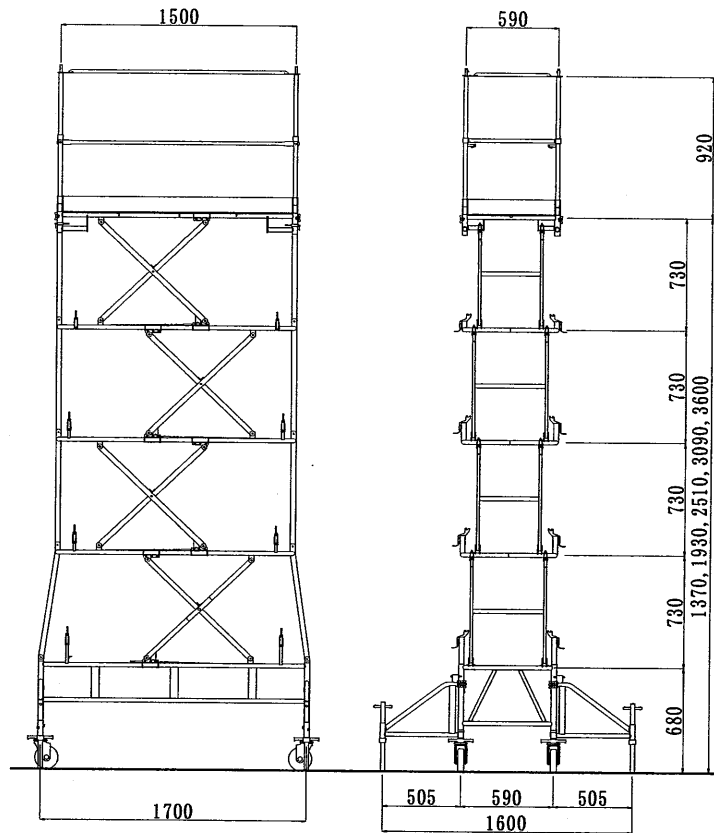
作業の省力化・効率的に

最適な昇降式移動足場アップスター

高所作業から天井仕上げ作業まで、あらゆる作業に適した高さが、簡単に・能率的にかつ安全に確保できます。軽量で強靭性に優れ、しかも、1人で操作が出来るように設計された昇降式移動足場です。

仕様

作業床寸法	巾 590 mm
	長さ 1500 mm
作業床高さ最低	1370 mm
最高	3600 mm
高さ調節5段階	3600 mm
	3090 mm
	2510 mm
	1930 mm
	1370 mm
自重	約192 kg
	(手摺材・巾木材を含む)
駆動装置	手動式
	(バネバランス方式)
積載荷重	1310 N (133 kg f)
	(作業者を含む)
表面処理	溶融亜鉛めっき
	(一部電気めっき)



品番

US-36S

組立手順

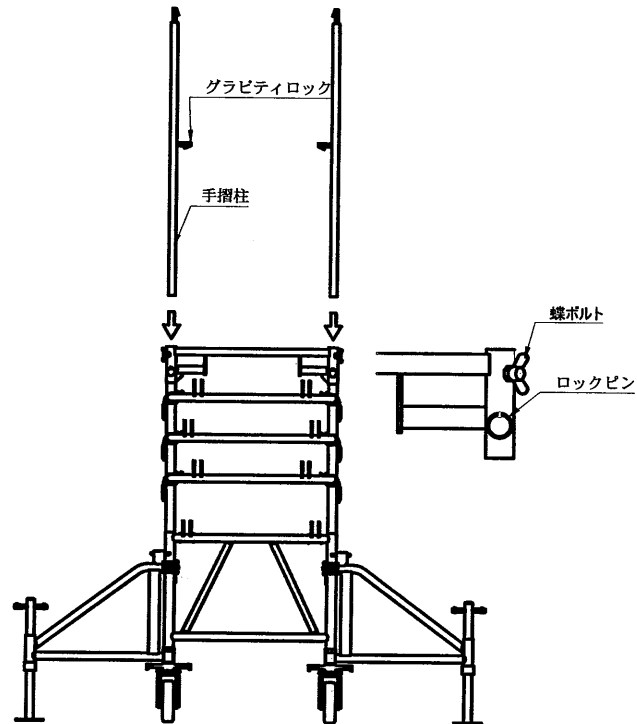
1. 組立前の注意事項

- (1) 組立作業主任者は、作業員の保護帽の着用等安全服装を確認のうえ、作業内容、安全上の諸注意を説明し徹底させる。
- (2) 使用場所の平坦度及び、上空空間の安全性を確認し、使用高さ（1370、1930、2510、3090、3600mm）を決定します。

2. 組立手順

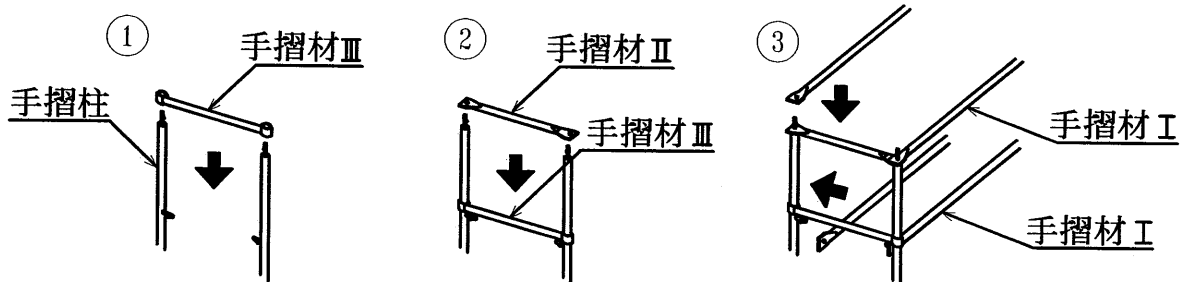
(1) 手摺柱の取付

手摺柱は、グラビティロックが内側方向へ向くように、上部フレームの四隅に差し込みロックピンで固定します。（蝶ボルトは、手摺材・巾木材をセット後締付け、手摺の揺れを防止します。）



(2) 手摺材の取付

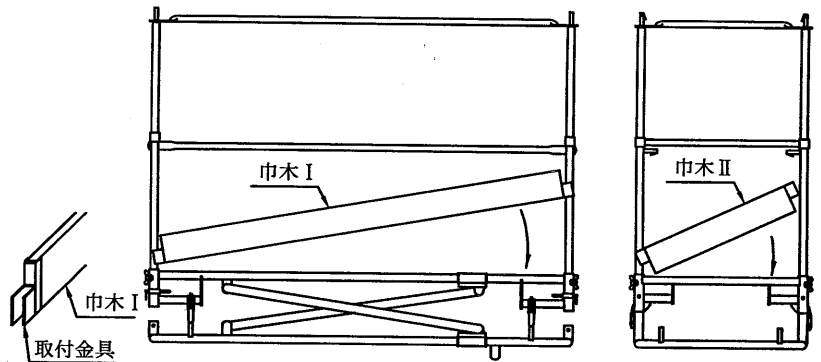
手摺材は、妻面の手摺材Ⅲを手摺柱に差し込み、続いて手摺材Ⅱをセットします。最後に手摺材Ⅰ（上棧、中棧）をセットします。



(3) 巾木の取付

巾木は、長い方の巾木Ⅰを先にセットします。セット方法は次の手順です。

- ① 巾木Ⅰは、取付金具を下側にし表側（フラット面）を外側に向けます。
巾木材を斜めにし、下方を先に手摺柱に差し込み上方を反対側の手摺柱に入れ、下まで下げます。
- ② 巾木Ⅱは、取付金具の付いている方を上にし、表側を外側へ向けて巾木Ⅰと同じように斜めにして下方より手摺柱に差し込み、続いて上方を反対側の手摺柱に入れ、作業床まで下げます。



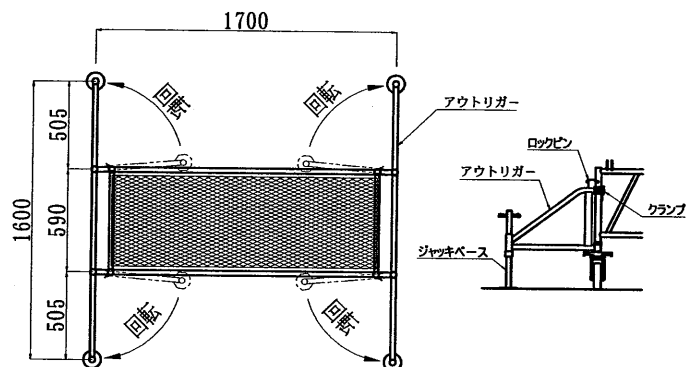
(4) 手摺柱固定用蝶ボルト

手摺柱・手摺材・巾木の設置を完了すると、各手摺柱（4本）の蝶ボルトを確実に締め付け、手摺柱の揺れを防止して下さい。

(5) アウトリガーの設置

アウトリガーは、下図の方向にして必ず使用して下さい。

- ① アウトリガーを所定の方向（アウトリガーロックピンが作動する位置）に回転させ、アウトリガーのクランプを確実に締め込み固定します。
アウトリガーを収納するときは、クランプを緩め、ロックピンを摘みロックを解除してから回転させて下さい。



- ② アップスター本体が水平となるように、4本の車輪のジャッキハンドルにて調節します。（アウトリガーは転倒防止を目的としています）

(6) 1段目の昇降（降下は逆手順）

- ① 1段目の止金具（桁行き方向に左右各2箇所）を外し、上部フレーム（床面）を持ち上げて下さい。（バネが内蔵されておりますので、軽く持ち上がるようになっております。）

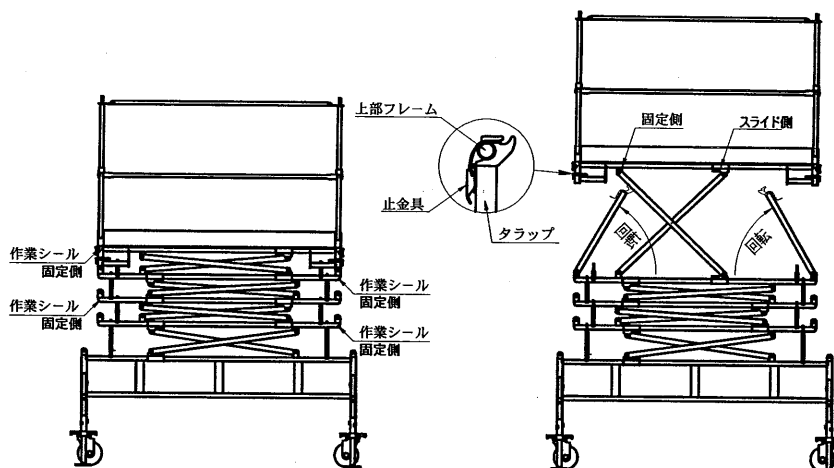
上昇（下降）作業は、スライド枠の固定側（「操作時は必ずここを持って下さい」シール貼付側）にて作業して下さい。

注意：上記シールの反対側にて作業を行いますとスライド枠が変形する恐れがあります。

- ② 本体内側に折り畳んだ左右のタラップを起こし、上部フレームの横地に合わせ、先端の止金具（左右各2箇所）を締め付けます。

(7) 2段目の上昇（降下は逆手順）

1段目と同様に止金具（桁行き方向に左右各2箇所）を外し、フレームを持ち上げてから左右のタラップを起こし、タラップの先端の止金具を締め付けます。上昇（下降）作業は、スライド枠の固定側（「操作時は必ずここを持って下さい」シール貼付側）にて作業して下さい。



(8) 3、4段目の上昇（降下は逆手順）

前記と同様に作業します。

(9) 作業床への昇降

作業床への昇降にはタラップを利用し、リトラクタ式墜落阻止器具等を使用して下さい。

（落下阻止器具は手摺柱の根元付近、または中棧手摺直上の手摺柱に取付けて下さい。昇降の際は、必ず車輪4点に荷がかかっていること、アップスター本体が水平になっていること、アウトリガーが確実に固定された状態でジャッキベースを地面（躯体）につけていること等を確認して行なって下さい。

(10) 横移動

横移動される場合は、次の手順です。

- ① 原則として作業床を最低の高さまで下げてからアウトリガーのジャッキベースを上げます。
- ② アウトリガーのクランプを緩めてアウトリガーを折り畳み、キャストのブレーキを解除して所定の位置に移動します。

移動に関しては、天井等上空空間の安全性を確認して行って下さい。

- ③ 人を乗せたまま、移動させないでください。

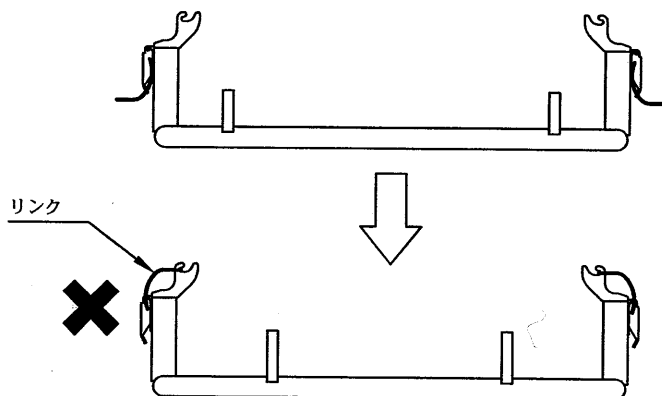
(11) 注意事項

上昇・下降時には、摺動部、受け金具等を指・手で触れないで下さい。指詰め等発生の危険があります。

3. 解体手順

解体手順は、組立作業の逆の手順で行います。

注意：下降する時はフレームに止金具のリンクが噛み込まないように注意して下さい。



メンテナンス

1. 日常点検

- (1) 使用に当たっては、部材の点検を行い不具合部は、補修または取り替えを行い使用する。
- (2) バネは、出荷時調整しておりますが、作動状況を確認し、動作不良の場合は下記の通り調節して下さい。

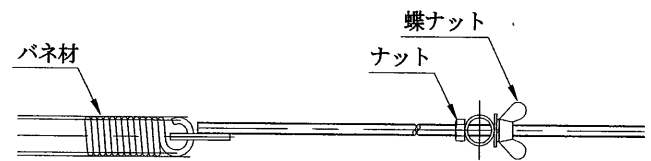
① バネを調節する必要がある段のフレームを上げ、タラップを取付け固定します。

② バネ取付部の蝶ナットと内側のナットを緩めてから、蝶ナットにてバネ材の調節を行って下さい。

上昇が困難な場合：バネを引き込みます

降下が困難な場合：バネを緩めます

③ 内側のナットを締めて（緩み止め）完了します。



2. 保管

- (1) 保管は原則として屋内保管とし、屋内保管が無理な場合は、シート等により養生して下さい。
- (2) 特に、回転部・スライド部の管理に注意して下さい。

以上